

Nコン2019 高等学校の部 課題曲

「僕が僕を見ている」(混声四部合唱)

演奏のポイントについて 参考演奏指揮:清水 敬一さん(指揮者)

Q 【Rap】のところ、どう練習したらよい?

清水: それこそよく音楽表現をするのに、自分の感じたことを大事にする、みたいなことは言いますが、でも、多くの音楽はやはり適切な様式みたいなのがありますよね。でも、「Rap」というのはそれこそ本当に自分の、自分が表現したいようにするのが一番いいと思いますから、もう解き放ってしまうのが一番いいと思います。自分たちがやりたいように歌ってごらん、っていうか。

まあ、歌ではない部分でもあるわけですから、ある種、語りみたいなものですから。だから、もう自分が表現を積極的に、自分のスタイルでやっていくってことで、(合唱は)複数でやっていますが、無理にあわせようとしなくていい効果が出ると思います。

Q ほかに注意すべきポイントは?

清水: (今回の課題曲は)言葉をお書きになった川村さんも、音楽をお書きになった岩崎さんも、映画の制作に携わっているお二人ですが、景色、場面がこう変わっていくっていうような音楽作品になっているので、その場面ごとに景色が変わっていくっていうことを歌手が意識することがすごく大事なんじゃないかなって思います。

Q どんどん(歌詞の)主人公も変わる?

清水: そうなんです。語り手も変わる。それも解釈ですけども、(語り手も)動いていくっていうことがとても特徴的だし、この作品の素晴らしいところだと思います。

Q Interludeのところはどう歌う?

清水: もとの川村さんの言葉(歌詞)にもあったんですけどもね、最終的には詞ではないので消されちゃいましたけれど、気持ちが高ぶっていくっていうようなことがあったのを、岩崎さんがああいう音楽にしてくださって、それを合唱で表現するために横山さんがああいう本当に素晴らしいアレンジをしてくださった。音楽を担当している岩崎さんも横山さんも、たとえばこう雲間から何かが見えていくように、あるいは何かが晴れあがっていくようにってことをおっしゃってましたけど、あそこの部分がこう音楽がどんどん進んでいくにしたがって、なにかこう希望がみえていく、あるいは希望に向かって運動していくっていうイメージを歌手のみなさんがもっていただけるといいんじゃないかなと思います。

Q 曲の中で三連符が効果的に使われている?

清水: そうですね、シラブルの数と音楽をうまくあわせていくと三連符になるっていうことも、もちろんあるんですけど、でも音楽は三連符が持っている力、エネルギーっていうのは非常にありますから、三連符のところに気持ちを込めると、言葉の大事さも浮き彫りにはなると思います。

Q ほかに練習で気を付けるべきポイントは？

清水： (Interludeのあと)霧が晴れていった最後の部分が、うっすらとした、あるいはもしかしたらはっきりとしたっていうふうにも思ってもいいと思うんですけど、非常に希望にあふれている部分だと思うんですけど、そこが先程の話者(語り手)が移っていく、視点に移っていく、あるいは主体が移っていくっていう考え方にすると、川村さんは「演奏している歌手が自分の気持ちとして歌う部分なんだ」という言い方をなさっていたので、あの、「なにを歌おう」とか「どこへ行こう」とかっていうところを自分の歌として歌うっていうことを考えていただければ(いいと思う)。どういうふうに歌おうとか考えることはもちろん大事なのだけれども、最終的には自分が歌っている歌がもう自分の歌なんだ!っていうところまで磨けると、(演奏は)いい仕上がりになるんじゃないでしょうか。

Q どう歌うとよい？

清水： 架空の主人公がいて、その内面を歌っているっていうところからももちろん始まっていくんですけど、あるいはその死んだ主人公に対してそれを周りがどう見ていたかっていう、周りの心情があったりするんですけど、そこからInterludeを通ったあとは歌手がその主体になっているということを意識するといいと思います。